会記・Proceedings

魚類学雑誌
47(2): 151–161

2001年度　年会のお知らせ

2001年度年会の予定をお知らせします．詳細は2001年5月に出版される魚類学雑誌48巻1号に掲載します．

期　日：2001年10月5日（金）—10月8日（月）
　　5日　編集委員会・評議員会
　　6–8日　研究発表会およびシンポジウム
会　場：鹿児島大学工学部
　　〒890–0065 鹿児島市郡元1丁目21–40
備　考：市内ホテル・保養施設を申し込み者に限り年会事務局で斡旋する予定です．

シンポジウム・セッションの申し込みについて

2001年度年会でシンポジウムまたはセッションを計画されている会員は下記の要領で申し込み書類を作成し，郵便で事務局までお送りください．会場および日時の制約上多数の申し込みがある場合には調整を計りますので，あらかじめご了承下さるようお願いします．セッションの主旨については魚類学雑誌45巻2号の会記を参照してください．

申込先：〒260–8682 千葉市中央区青葉町955–2
　　千葉県立中央博物館内
　　日本魚類学会事務局　須之部友基
　　FAX：043–266–2481　e-mail: kame7252@yc4.so-net.ne.jp

必要事項：(1) 標題，(2) 企画者氏名，(3) 趣旨説明（1000字以内），(4) 演者と演題，(5) 連絡先住所・氏名（電話，ファックス，e-mail）．なお，標題や演者・演題は暫定案でも結構ですが，内容が明瞭にわかるようにして下さい．ただし，実施時の内容と大きく異なる暫定案を作成することは避けて下さい．

申込締切：2001年1月31日

2000年度第1回役員会

2000年2月10日（木），於　国立科学博物館分館2階会議室．
出席者：尼岡，松浦，林，川瀬，宮，西田，瀬能，篠原，須之部，中川（学会事務センター）

1. 前回議事録の確認．
2. 報告事項　編集：現在の投稿原稿は英文誌88篇，和文誌17篇．庶務：学術会議の会員候補者を動物科学では松浦啓一氏，水産学では田中克氏を選出した．井口恵一朗氏が新たな編集委員に加わることが評議員の投票により承認された．川瀬裕司氏よりホームページによる研究発表に関する説明があった．会計：1999年度収支計算書および2001年度概算収支予算案が示された．
3. 2000年度年会について　シンポジウムに「魚の和名を考える–差別的名称をどうするか」（コンビーナー：佐藤陽一・瀬能宏）およびセッションに「ミトコンドリアゲノミクスと魚類分子系統学」（コンビーナー：宮　正樹・西田　睦）の申し込みがあり承認された．
4. 学会事務センターとの委託契約内容について確認作業を行った．和文誌の定価について検討した．
5. 2000年1月8–9日に行われた日本動物分類学関連学会連合設立のシンポジウムについて報告があった．
6. その他　東京湾海洋環境シンポジウムの実行委員を工藤孝浩氏が継続することとなった．

2000年度第2回役員会

2000年4月14日（金），於　国立科学博物館分館2階会議室．
出席者：尼岡，松浦，林，川瀬，河野，宮，岡部，瀬能，篠原，須之部

1. 前回議事録の確認．
2. 報告事項　編集：今年度の投稿原稿は英文誌20篇，和文誌2篇．編集業務の委託先について経過報告があった．会計：別刷り・超過ページ代未納者への請求方法について検討した．庶務：2000年度年会の進捗状況ついて報告があった．ホームページへのアクセス回数を試験的にカウントすることになった．
3. その他　水産研連からの科研費審査員候補者を評議員の推薦により2名選ぶこととなった．

2000年度第3回役員会

2000年5月26日（金），於　国立科学博物館分館2階会議室．
出席者：尼岡，松浦，川瀬，河野，宮，瀬能，篠原，須之部，上野

1. 前回議事録の確認．
2. 報告事項　編集：今年度の投稿原稿は英文誌23篇，和文誌3篇．庶務：学会事務センターとの契約が完了した．水産研連からの科研費審査員候補者は評議員の推薦により塚本勝巳・松浦啓一の両氏が選出された．ホームページへのアクセス回数は1ヶ月で約2500件であった．
3. 英文誌の編集委託業務について　評議員からの意見が報告された．契約先について検討した．
4. 名簿の編集業務について　名簿委員である佐藤陽一・波戸岡清峰両氏に11月15日までに作業を完了するようにお願いすることとなった．

2000年度第4回役員会

2000年8月11日（金），於　国立科学博物館分館2階会議室
出席者：尾岡，松浦，川瀬，河野，宮，岡部，瀬能，篠原，須之部，上野，中川（学会事務センター）

1. 前回議事録の確認．
2. 報告事項　編集：今年度の投稿原稿は英文誌38篇，和文誌5篇．庶務：学会事務センターとの契約内容を確認した．日本学術会議の補欠の会員に松浦啓一氏が選出された．年会の進捗状況について報告があった．会計：1999–2001年度予算の収支，概算および案について報告した．
3. 英文誌の編集委託業務について　委託先をSpringer-Verlag社とすることについて評議員より承認を得たことの報告があった．
4. その他　自然史学会連合のホームページと魚類学会のホームページをリンクした．

2000年度　年会

2000年度年会が2000年10月6日（金）—9日（月）に神奈川県立生命の星・地球博物館において開催され，以下の会合があった．

1. 2000年度第1回編集委員会

10月6日（金）12:00–14:30に編集委員15名が出席して2000年度第1回編集委員会が開かれた．議題は以下の通り．1) 2000年度編集報告．2) 編集委員と編集顧問の補充と拡充について．3) たな表紙のデザインと論文のレイアウト．4) シュプリンガーへの委託に伴う新たな英文誌編集の流れ．5) 新分類群総説にあたっての著者の数．6) その他．

2. 2000年度第1回評議員会

10月6日（金）15:00–18:00に評議員31名（他に委任状16名）が出席して開催された．議長には中坊徹次氏が選出された．議事は以下の通りであった．1) 1999–2000年度会務報告．2) 1999–2000年度編集報告．3) 1999年度決算報告，同監査報告，および2000年度報告．4) 2001年度収支予算（案）．5) 別刷り費の滞納について．6)「天皇陛下御在位10周年記念・魚類の多様性に関する国際シンポジウム」（平成12年2月23~25日）開催に関する報告．7) 日本学術会議に関する報告．8) 自然史学会連合に関する報告．9) 学会賞について．10) その他

以上の議題のうち，1999–2000年度会務報告，1999–2000年度編集報告，1999年度決算報告，同監査報告，および2000年度報告，2001年度収支予算（案）については，原案通り承認された．2001年度の編集委員の体制は以下の通りになった（敬称略）：河野博（委員長），木村清志（英文誌主任），後藤　晃（和文誌主任），井口恵一郎，岩田明久，岩槻幸雄，片野　修，幸田正典，佐々木邦夫，篠原現人，白井　滋（新規），高田啓介，宮　正樹，矢部　衛，山内皓平．2001年度から，編集顧問にはこれまでのメンバーに，Lee-shing Fang, Carin Magnhagen, Valentina G. Sideleva, Edward O. Wiley, Robert J. Wootonの各氏が新たに加わることになった．印刷代の滞納者への対処について討議し，今後も学会事務センターを中心にさらに請求してゆくことになった．学会賞の運営規則と運営細則について検討し，原案を一部修正したものが承認された．名誉会員としてJohn R. Paxton氏が推薦され承認された．今後の年会の開催地は2001年度鹿児島大学，2002年度信州大学，2003年度京都大学に決定した．

3. 2000年度第1回総会

2000年10月7日（土）11:15–12:00．出席者70名．議長には中坊徹次氏が選出された．議事は以下の通りであった．1) 1999–2000年度会務報告．2) 1999–2000年度編集報告．3) 1999年度決算報告，同監査報告，および2000年度報告．4) 2001年度収支予算（案）．5) 別刷り費の滞納について．6)「天皇陛下御在位10周年記念・魚類の多様性に関する国際シンポジウム」（平成12年2月23~25日）開催に関する報告．7) 日本学術会議に関する報告．8) 自然史学会連合に関する報告．9) 学会賞について．10) その他．議事終了後，オークション売上金による旅費援助として8名に1人20,000円が授与された．

4. 研究発表会・シンポジウム

第1会場・第2会場・ポスター会場に分かれて156題の研究発表が行われた．シンポジウムは「魚の和名を考える–差別的名称をどうするか」が開催された．参加者は開催期間を通じて422名であった．

5. 懇親会

懇親会は10月8日（土）18:00–20:00に228名の参加者で盛大に開催された．

6. 公開特別講演会

10月8日（日）18:00–19:00．「田中茂穂先生の思い出」のタイトルで箕島清夫氏による公開特別講演会が行われ約100名が参加した．

7. オークション

年会会場・懇親会場では書籍等のオークションが行われ，198,100円の基金を得ることができた．

8. 評議員会・総会抜粋資料

会員数
（2000年7月現在）

	国内	国外	計
個人会員	1120 (−19)	168 (−4)	1288 (−23)
名誉会員	4	3	7
団体会員	96 (+5)	0	96 (+5)
賛助会員	3	0	3
購読	52 (+21)	74 (−23)	126 (−3)
寄贈	5	11	16

注1.（　）内は1999年7月時点に対する増減．

会員数および入退会者数の推移

年度	国内個人会員			国外個人会員			退会処分
	会員数	入会	退会	会員数	入会	退会	
91	913	30	12	211	8	1	17
92	920	47	26	214	5	3	7
93	940	55	18	222	8	7	18
94	1002	30	10	176	7	6	58
95–96	1056	131	41	192	20	6	13
96–97	1106	74	21	177	9	2	34
97–98	1121	70	27	170	9	2	55
98–99	1139	72	29	172	11	3	29
99–00	1120	61	44	168	9	3	43

注1．1994年度以前の会員数は3月上旬，入退会者数は3月末日に集計
注2．1995–1996年度の集計期間は1995年1月–1996年7月；1996–1997年度の集計期間は1996年8月–1997年7月；1997–1998年度の集計期間は1997年8月–1998年6月；1998–1999年度の集計期間は1998年8月–1999年7月；1999–2000年度の集計期間は1999年8月–2000年7月

1999–2000年度編集報告

1) 投稿論文

1999年：105篇（英文誌88篇，和文誌17篇）

投稿論文内訳

英文誌：分類35 (39.8%)；系統4 (4.5%)；形態2 (2.3%)；分布6 (6.8%)；行動生態4 (4.5%)；生態一般15 (17.0%)；仔稚魚8 (9.1%)；遺伝（核型分析を含む）11 (12.5%)；生理2 (2.3%)；組織1 (1.1%)

和文誌：分類0 (0.0%)；系統0 (0.0%)；形態2 (11.8%)；分布8 (47.1%)；行動生態1 (5.9%)；生態一般3 (17.6%)；仔稚魚1 (5.9%)；遺伝（核型分析を含む）2 (11.8%)；生理0 (0.0%)；組織0 (0.0%)

2000年8月30日現在：48篇（英文誌41篇，和文誌7篇）

投稿論文内訳

英文誌：分類18 (43.9%)；系統2 (4.9%)；形態6 (14.6%)；分布0 (0.0%)；行動生態3 (7.3%)；生態一般5 (12.2%)；仔稚魚5 (12.2%)；遺伝（核型分析を含む）2 (4.9%)；生理0 (0.0%)；組織0 (0.0%)

和文誌：分類0 (0.0%)；系統2 (28.6%)；形態0 (0.0%)；分布1 (14.3%)；行動生態1 (14.3%)；生態一般2 (28.6%)；仔稚魚0 (0.0%)；遺伝（核型分析を含む）1 (14.3%)；生理2 (28.6%)；組織0 (0.0%)

2) 出版に要した期間

英文誌（45巻3号から47巻2号まで）

受付から出版までの日数

最短期間：206日（7カ月）；最長期間：795日（27カ月）；平均期間：411日（14カ月）．

和文誌（45巻2号から47巻1号まで）

受付から出版までの日数

最短期間：109日（4カ月）；最長期間：601日（20カ月）；平均期間：400日（13カ月）．

日本魚類学会1999年度収支計算書

（1999年1月1日～1999年12月31日）

収入の部　（単位：円）

科目	予算額	決算額	予算－決算
会費	8,870,000	9,649,021	−779,021
正会員会費	7,050,000	7,721,000	−671,000
団体会員会費	1,040,000	1,162,000	−122,000
賛助会員会費	80,000	40,000	40,000
外国会員会費	700,000	726,021	−26,021
購読料	890,000	810,000	80,000
英文誌・和文誌購読料	720,000	639,000	81,000
英文誌購読料	170,000	171,000	−1,000
バックナンバー収入	150,000	174,165	−24,165
広告料収入	200,000	220,000	−20,000
著者負担印刷代	900,000	1,208,800	−308,800
刊行助成費	2,730,000	2,320,000	410,000
雑収入	150,000	275,521	−125,521
入会金	50,000	74,000	−24,000
オークション積立金取崩収入	250,000	200,000	50,000
会誌発行引当金戻入収入	682,500	682,500	0
当期収入合計	14,872,5000	15,614,007	−741,507
前年度繰越金	4,961,793	4,961,793	0
合計	19,834,293	20,575,800	−741,507

支出の部　（単位：円）

科目	予算額	決算額	予算－決算
会誌発行費	8,000,000	7,960,121	39,879
編集費	2,200,000	1,303,570	896,430
会誌発送費	900,000	943,235	−43,235
役員会合費	50,000	49,100	900
シンポジウム費	200,000	200,000	0
消耗品費	50,000	240	49,760
通信費	300,000	498,290	−198,290
諸印刷費	150,000	209,323	−59,323
年会運営費	250,000	250,000	0
年会参加補助金	250,000	200,000	50,000
人件費	20,000	0	20,000
交通費	300,000	436,800	−136,800
業務委託費	2,500,000	2,750,819	−250,819
什器備品費	100,000	0	100,000
協賛金	50,000	41,090	8,910
雑費	300,000	321,675	−21,675
国際会議繰入金	15,000	3,296	11,704
会誌発行引当金	682,500	580,000	102,500
名簿作成積立金	200,000	200,000	0
雑損失	0	23,384	−23,384
予備費	100,000	0	100,000
当期支出合計	16,617,500	15,970,943	646,557
次年度繰越金	3,216,793	4,604,857	−1,388,064
合計	19,834,293	20,575,800	−741,507

貸借対照表

1999年12月31日
(単位：円)

借方 科目	借方 金額	貸方 科目	貸方 金額
流動資産		流動負債	
預け金	5,637,510	未払費用	3,507,422
小口現金	37,783	前受会費	4,018,500
前払費用	85,010	会誌発行引当金	580,000
未収入金	472,000	名簿作製積立金	400,000
立替金	473,728	国際会議繰入金	1,481,268
定期預金	5,008,044	オークション積立金	497,205
定期預金	2,375,177		
金銭信託	1,000,000	次年度繰越金	4,604,857
		前年度繰越金	4,961,793
		今年度収支差額	−356,936
合計	15,089,252	合計	15,089,252

財産目録

1999年12月31日
(単位：円)

資産の部

科目	摘要	金額
流動資産		
預け金	(財)日本学会事務センター	5,637,510
小口現金	学会幹事手元金	37,783
前払費用	通信費(2000年度会費請求書等郵税)	85,010
未収入金		472,000
	著者負担印刷代	372,222
	広告料	100,000
立替金	学会誌別刷代	473,728
定期預金	第一勧業銀行本郷支店	5,408,044
定期預金	東洋信託銀行上野支店	1,975,177
金銭信託	東洋信託銀行上野支店	1,000,000
合計		15,089,252

負債の部

(単位：円)

科目	摘要	金額
流動負債		
未払費用		3,507,422
	庶務幹事諸経費立替分	21,161
	役員会交通費精算	436,800
	編集幹事立替分通信費	31,500
	欧文誌 Vol. 45-4 会誌作製費	1,402,835
	和文誌 Vol. 45-2 会誌作製費	976,711
	会誌発送費等(欧文誌 Vol. 45-4, 和文誌 Vol. 45-2)	638,415
前受会費	2000年以降分会費	4,018,500
会誌発行引当金		580,000
名簿作製積立金		400,000
国際会議繰入金		1,481,268
オークション積立金		497,205
合計		10,484,395

繰越金

(単位：円)

科目	摘要	金額
前年度繰越金		4,961,793
今年度収支差額		−356,936
合計		4,604,875

試　算　表

日本魚類学会

	2000年度予算額		2000年6月30日現在	
預け金			3,641,683	
小口現金			37,783	
定期預金			5,008,044	
金銭信託（ヒット）			4,000,198	
未収入金			68,000	
前払費用			0	
立替金			327,770	
定期預金			2,375,177	
未払費用				0
前受会費				77,000
会誌発行引当金				0
名簿作成積立金				400,000
国際会議繰入金				1,481,268
オークション積立金				497,205
前年度繰越金				4,604,857
小計			15,458,655	7,060,330
会費		12,190,000		11,323,946
正会員会費		10,170,000		9,329,000
団体会員会費		970,000		996,000
賛助会員会費		60,000		60,000
外国会員会費		990,000		938,946
購読料		804,000		373,500
英文誌・和文誌購読料		576,000		288,000
英文誌購読料		228,000		85,500
パックナンバー収入		180,000		44,930
広告料収入		300,000		0
著者負担印刷代		1,000,000		60,000
刊行助成費		2,320,000		0
雑収入		200,000		112,084
入会金		50,000		30,000
オークション積立金取崩収入		250,000		0
名簿積立金戻入収入		400,000		0
会誌発行引当金戻入収入		580,000		580,000
会誌発行費	8,200,000		1,529,470	
名簿作成費	400,000		0	
編集費	2,200,000		1,217,440	
会誌発送費	950,000		183,218	
役員会合費	50,000		0	
シンポジウム費	200,000		0	
消耗品費	50,000		0	
通信費	400,000		132,148	
諸印刷費	150,000		51,315	
年会運営費	250,000		0	
年会参加補助金	200,000		0	
人件費	20,000		0	
交通費	400,000		0	
業務委託費	2,700,000		945,000	
什器備品費	100,000		0	
協賛金	50,000		0	
雑費	350,000		67,544	
国際会議繰入金	10,000		0	
会誌発行引当金	580,000		0	
名簿作製積立金	200,000		0	
雑損失	0		0	
予備費	100,000		0	
小計	17,560,000	18,274,000	4,126,135	12,524,460
前年度繰越金		4,604,857		
次年度繰越金	5,318,857			
合計	22,878,857	22,878,857	19,584,790	19,584,790

日本魚類学会2001年度収支予算

（2001年1月1日から2001年12月31日）

収入の部　（単位：円）

科目	00年度予算額	01年度予算額	備考
会費	12,190,000	12,227,000	
正会員会費	10,170,000	10,070,000	1,119名×10.000円×90%
団体会員会費	970,000	1,100,000	96団体×12,000円×95%
賛助会員会費	60,000	60,000	3件×20,000円×100%
外国会員会費	990,000	997,000	＊1
購読料	804,000	90,000	
英文誌・和文誌購読料	576,000	—	※00年度の英・和セット購読希望数より
英文誌購読料	228,000	—	算出2,000円
和文誌購読料	—	90,000	（1,000円／年2回）×75部×60%
バックナンバー収入	180,000	100,000	Vol. 47以前のバックナンバー売上
広告料収入	300,000	300,000	5社×2回×30,000円
著者負担印刷代	1,000,000	1,000,000	
刊行助成費	2,320,000	2,200,000	
雑収入	200,000	200,000	
入会金	50,000	50,000	
オークション積立金取崩収入	250,000	200,000	
名簿積立金戻入収入	400,000	0	
会誌発行引当金戻入収入	580,000	550,000	
当期収入合計	18,274,000	16,917,000	
前年度繰越金	4,604,857	5,318,857	
合計	22,878,857	22,235,587	

＊1　{129名×（7,000円－350円）×80%}＋{41×（10,000円－500円）×80%}

支出の部　（単位：円）

科目	00年度予算額	01年度予算額	
会誌発行費	8,200,000	9,500,000	
英文誌	5,700,000	6,500,000	
和文誌	2,500,000	2,500,000	
編集費	—	500,000	
名簿作製費	400,000	0	
編集費	2,200,000	—	
会誌発送費	950,000	950,000	IR Vol. 48-1,4，魚雑 Vol. 38-1, 2発送郵税等
役員会合費	50,000	50,000	
シンポジウム費	200,000	200,000	年会事務局（鹿児島大学）へ
消耗品費	50,000	50,000	
通信費	400,000	400,000	
諸印刷費	150,000	150,000	
年会運営費	250,000	250,000	年会事務局（鹿児島大学）へ
年会参加補助金	200,000	200,000	2001年度年会事務局（鹿児島大学）へ
人件費	20,000	20,000	
交通費	400,000	400,000	役員会・編集委員会出席交通費
業務委託費	2,700,000	2,900,000	
什器備品費	100,000	100,000	
協賛金	50,000	50,000	
雑費	350,000	300,000	
国際会議繰入金	10,000	10,000	
会誌発行引当金	580,000	550,000	
名簿作製積立金	200,000	200,000	
雑損失	0	0	
予備費	100,000	100,000	
当期支出合計	17,560,000	16,380,000	
次年度繰越金	5,318,857	5,855,857	
合計	22,8782857	22,235,857	

注）00年度の前年度繰越金は99年度決算額による．

特許庁長官指定の学術団体認定について

このたび日本魚類学会は，特許庁長官が指定した学術団体に2000年10月6日付けで認定されました．学会で発表された内容（口頭発表・論文など）は，発表と同時に公知の事実とみなされるため，たとえそれが自分のアイデアであっても発表した後には特許を申請することができなくなってしまいます（特許法第29条第1項）．ただし，特許庁長官が指定した学術団体において発表された内容については，6カ月以内であれば新規性喪失の例外として扱われます（特許法第30条第1項）．つまり，今回特許庁の認定を受けたことにより，日本魚類学会から発表された内容について6カ月以内であれば，所定の証明書を添えることにより特許を申請することが可能となりました．ただしこれは第三者による特許の申請を妨げるものではないので，ご注意下さい．

特許庁長官が指定した学術団体に関する詳しい内容は，特許庁のホームページ (http://www.jpo-miti.go.jp/indexj.htm) をご覧下さい．

（庶務幹事　川瀬裕司）

「魚類の多様性に関する国際シンポジウム」記録

去る2000年2月24日（木），25日（金）の両日にわたって，日本魚類学会は東京大学海洋研究所および国立科学博物館との共催で，「天皇陛下御在位10年記念・魚類の多様性に関する国際シンポジウム—生物多様性理解の新しい地平に向けて」を国立科学博物館で開催しました．このシンポジウムは，魚類を対象にして生物多様性問題を分類学・進化系統学の面から検討し，21世紀へ向けての研究を展望することを目的に，魚類学者として知られる天皇の在位10年記念行事の一環として，文部省のCOE国際シンポジウムとして企画されたものです．これは，日本で開催された魚類学に関する本格的な国際シンポジウムとしては，1985年開催の第2回インド－太平洋魚類国際会議以来のものとなりました．

シンポジウムには招待講演者を含め海外8か国から約30人，国内から約110人，合計約140人の研究者が参加しました．会議は招待講演者の口頭発表からなる全体会議と，一般参加者が展示パネルを用いた発表を行うポスターセッションから構成されました．全体会議の第1セッションでは，魚類分類学・進化系統学の過去と現在を議論し，これらの学問分野が生物多様性を理解する上できわめて重要であることが再確認されました．第2セッションでは，魚類でも最大のグループの1つで，かつ陛下の専門であるハゼ類についての種々のケーススタディーが発表され，この類の形態的・生態的・分類的多様性の大きさについての検討がなされました．そして第3セッションでは，21世紀に向けての魚類分類学，進化系統学の展望を，形態学，発生学，分子遺伝学，ゲノム科学などの諸方面から論じるとともに，当該分野の多様性保全への貢献方向について議論されました．またポスターセッションではこれらに関連する42題のポスターが発表され，熱心な議論が繰り広げられました．これらを通じて，日本の若手研究者の活発な研究活動を海外の研究者に印象づけるとともに，日本の若手研究者が海外の一流研究者と直接討論することによりさまざまな刺激を受けることができたものと考えられます．

講演に耳を傾ける会場の陛下および参加者

シンポジウムでの討論風景

陛下と招待講演者および実行委員

24日夜にはほとんどのシンポジウム参加者が集まってレセプションが開かれました．これには両陛下や文部大臣も出席，科学博物館長，天皇，および文部大臣の挨拶，そして海洋研究所長の音頭による乾杯の後，全員で和やかに歓談しました．

なお，シンポジウムに付随するものとして，2月23日に招待講演者の歓迎会を兼ねた予備会議が実施されました．また，シンポジウム後の26日には招待講演者を中心に築地市場，葛西水族館などの見学会がもたれました．魚好きの人たちに日本の魚を十分に堪能してもらえたに違いありません．

本シンポジウムは，上述のように東京大学海洋研究所，国立科学博物館，および日本魚類学会の共催という形で開催されましたが，具体的な企画・運営は魚類学会役員会のメンバーを中心に構成された実行委員会（委員長：沖山宗雄前会長，企画委員長：西田）が行ないました．全体の事務や会場整理などに関しては，海洋研究所および国立科学博物館の事務局の全面的な尽力があり，シンポジウムは滞りなく執り行われました．

以下に，当日のプログラム（ポスター発表の演題を含む）を掲載します．

Commemoration of the Tenth Anniversary of His majesty The Emperor's Enthronement
International Symposium on Diversity of Fishes
—Towards the New Horizon of an Understanding of Biodiversity—

(National Science Museum, Tokyo
23-25 February 2000)

Sponsored by:
Ministry of Education, Science, Sports and Culture, Japan
Ocean Research Institute, The University of Tokyo
The Ichthyological Society of Japan

〈Symposium Organizers〉

Chairperson: Muneo Okiyama, Vice-chairs: Kunio Amaoka and Keiichi Matsuura, Program Committee Chair: Mutsumi Nishida, Program Committee Members: Akihisa Iwata, Hiroshi Kohno, Masaki Miya, Hiroshi Senou, Gento Shinohara, and Tomoki Sunobe. Local Committee Members: Kaoru Kubokawa, Katsutoshi Watanabe, Yuji Yamazaki, and Takahiko Mukai

〈Program〉

Wednesday–February 23

14:00–16:30 Registration

Thursday–February 24

09:00–09:10 Opening Address — Muneo Okiyama

Session 1. Progress of Systematic Research on Fish Diversity
Chairs: Keiichi Matsuura & Kent E. Carpenter

09:10–09:40 Unknowns in the history of ichthyology — *Theodore W. Pietsch*
09:40–10:10 The history of ichthyology in Japan — *Keiichi Matsuura*
10:10–10:40 Teleost fishes and phylogenetics — *Edward O. Wiley*
10:40–11:00 COFFEE BREAK
11:00–11:30 Molecular versus morphological evidence: Phylogenetic pattern in sparoid fishes — *Kent E. Carpenter & Thomas M. Orrell*
11:30–12:00 Systematics of the tunas and mackerels (Scombridae) — *Bruce B. Collette*
12:00–12:30 Progress on a survey of the dorsal gill arch musculature of actinopterygian fishes — *Victor G. Springer*

12:30–13:30 LUNCH

Poster Session (13:30–14:50)

Session 2. Fish Diversity as Exemplified by Gobioids
Chairs: Akihisa Iwata & Douglas F. Hoese

15:00–15:30 The species of Mugilogobius and the relationships of the Gobionellinae — *Helen K. Larson*
15:30–16:00 Paired fin anatomy and relationships of basal gobioids — *Anthony C. Gill*
16:00–16:30 Biodiversity of the gobiid fish genus *Trimma*—fact or fiction? — *Richard Winterbottom*
16:30–17:00 Towards a better understanding of the systematics and diversity of the Amblyopine gobies — *Edward O. Murdy & Kouichi Shibukawa*
18:00–20:00 RECEPTION

Friday–February 25

Session 2. Fish Diversity as Exemplified by Gobioids (continued)
Chairs: Tomoki Sunobe & Collette M. St. Mary

09:00–09:30 Towards an understanding of interrelationships and trends in sexual patterns and evolutionary relationships in gobioid fishes — *Kathleen S. Cole*
09:30–10:00 Dissecting the variation in sex allocation in the genus *Lythrypnus* — *Collette. M. St. Mary*
10:00–10:30 Burrow structure and the ecological significance in the gobiid fishes, with special reference to mound construction by *Valenciennea longipinnis* — *Takeshi Takegaki*
10:30–11:00 The diversity of reproductive behaviour in gobiid fishes: Intra- and interspecific differences in strategy and tactic — *Carin Magnhagen*

Poster Session (continued) (11:00–12:30)

12:30-14:00 LUNCH

Session 3. Prospects of Systematic Research on Fish Diversity
Chairs: Mutsumi Nishida & John R. Paxton

14:00–14:30 A celebration of morphology—progress and prospects *David G. Johnson*

14:30–15:00 Ontogeny and systematics of fishes: Where have we been and where are we going? *Jeffrey M. Leis*

15:00–15:30 Mitogenomics and teleostean molecular systematics: Resolving higher-level relationships with longer DNA sequences *Masaki Miya & Mutsumi Nishida*

15:30–15:50 COFFEE BREAK

15:50–16:20 SINE insertion analysis and its application for complex phylogenetic systems *Norihiro Okada*

16:20–16:50 The genetic basis of biodiversity: Genomic studies of cichlid fishes *Thomas D. Kocher*

16:50–17:20 Fish conservation in the 21st Century and the role of fish systematists *John R. Paxton*

17:20–17:30 Closing Address *Kunio Amaoka*

Posters

P-1 A simple convert method from truss measurements to the Cartesian coordinates *Fumihito Muto*

P-2 Stepmatrix character-state weighting in phylogeny reconstruction: A new method for estimating weights using random cladograms *Nobuhiro Minaka*

P-3 Genetic structure and molecular phylogeny of lamprey species from the Far East *Yuji Yamazaki, Akira Goto & Mutsumi Nishida*

P-4 An undescribed species of skate (Elasmobranchii, Rajidae) from the South China Sea *Choong-Hoon Jeong, Tetsuji Nakabo & Han-Ling Wu*

P-5 Gene rearrangements in the mitochondrial genomes of the order Anguilliformes (Teleostei: Elopomorpha): Phylogenetic implication for the interfamilial relationships *Jun Inoue, Masaki Miya, Katsumi Tsukamoto & Mutsumi Nishida*

P-6 Genetic diversity in the Japanese eel (*Anguilla japonica*) from Japan and Taiwan using the RAPD technique *Masaya Katoh & Masahiro Kobayashi*

P-7 Inter- and intra-populational variation in vertebral counts of *Anguilla marmorata* *Shun Watanabe, Satoshi Ishikawa, Jun Aoyama & Katsumi Tsukamoto*

P-8 Peramorphic ontogeny as an adaptive developmental strategy in Pacific herring: An overlooked feature of herring ontogeny and its implication to phylogeny *Toshiro Saruwatari, Ichirou Oohara, Noritaka Mochioka, Hiroyuki Ookouti, Yoshirou Watanabe & Takanori Kobayashi*

P-9 The abrupt karyotype evolution in the genus *Rhodeus* (Cyprinidae, Acheilognathinae) *Hiroto Naoi, Takayoshi Ueda & Ryoichi Arai*

P-10 Species diversity of two genera *Cobitis* and *Iksookimia* (Pisces: Cobitidae) from Korea and structure of their egg envelopes *Ik-Soo Kim & Jong-Young Park*

P-11 Intraspecific variation and phylogenetic status of *Cobitis takatsuensis* (Cobitinae) inferred from mitochondrial DNA divergence *Tadao Kitagawa, Toshio Okazaki, Masakazu Watanabe, Takanori Kobayashi, Motoi Yoshioka & Masaaki Kashiwagi*

P-12 Molecular phylogeny and biogeography of the East Asian bagrid catfishes *Katsutoshi Watanabe, Chunguang Zhang, Sang-Rin Jeon & Mutsumi Nishida*

P-13 Phylogenetic position of "*Chlorophthalmus nigripinnis*—species group" in Aulopiformes *Tomoyasu Sato & Tetsuji Nakabo*

P-14 Histological studies on the internal organs of the inkfishes and ribbonfishes stranded on the coast of Niigata, Sea of Japan *Yoshiharu Honma, Tatsuo Ushiki & Masaei Takeda*

P-15 Genetic variation within the ninespine stickleback in a river system without dispersal barriers *Hiroshi Takahashi, Keisuke Takata & Akira Goto*

P-16 Protogynous sex change of *Monopterus albus* (Teleostei: Symbranchidae) in Nara Basin Japan *Seiji Matsumoto, Masanori Kohda & Katsuya Iwata*

P-17 Review of the synapomorphies of the order Scorpaeniformes *Hisashi Imamura & Mamoru Yabe*

P-18 Preliminary survey on nerve-ligament relationships in the snout of the order Scorpaeniformes *Gento Shinohara*

P-19 Inshore sculpins in the Kuril Archipelago (Scorpaeniformes: Cottidae) *Mamoru Yabe, Aya Soma & Kunio Amaoka*

P-20 Percoid fish diversity in Middle Miocene of Japan *Yoshitaka Yabumoto, Kazuo Sakamoto & Teruya Uyeno*

P-21 An interesting apogonid species, *Rhabdamia* sp. from southern Japan, with special reference to its social mimicry *Kohji Mabuchi, Yoshihiko Machida & Tetsuji Nakabo*

P-22 Specific divergence of fishes in genus *Lateolabrax* (Perciformes: Percichthyidae) *Koji Yokogawa*

P-23 Is Kyphosidae (sensu Nelson, 1994) monophyletic? *Naoki Yagishita, Takanori Kobayashi & Tetsuji Nakabo*

P-24 Dating the origin of euteleostean biodiversity by the molecular clock: familial radiation of perciforms may have predated the Cretaceous/Tertiary boundary *Yoshinori Kumazawa, Motoomi Yamaguchi & Mutsumi Nishida*

P-25 Phylogenetic relationships and ancient incomplete lineage sorting among cichlids in Lake Tanganyika as revealed by retroposons *Kazuhiko Takahashi, Yohey Terai, Mutsumi Nishida & Norihiro Okada*

P-26 Morphological phylogeny of Tanganyikan cichlid fishes (Perciformes; Cichlidae) *Tetsumi Takahashi*

P-27 Parental care of the substrate brooding cichlid, *Julidochromis ornatus* in Lake Tanganyika *Satoshi Awata & Masanori Kohda*

P-28 Cichlid fish communities on sediment-rich and -scarce rocky bottoms in Lake Malawi *Masahide Yuma, Atsushi Maruyama & Bosco Rusuwa*

P-29 The Lake Biwa fish community: Degradation in diversity of the indigenous component and possible threat by invasive species *Katsuki Nakai*

P-30 Comparative ecology of largemouth bass *Micropterus*

salmoides at two lakes in central Japan—variation of ecological characteristics and adaptability to various environments—
Taiga Yodo

P-31 Life history of two species of sleepers, *Eleotris acanthopoma* and *E. fusca* on Okinawa Island
Ken Maeda & Katsunori Tachihara

P-32 Mudskippers store air for reproduction in their burrows
Atsushi. Ishimatsu, Toru Takita & Khoo Khay Huat

P-33 Individual difference in the activity pattern of the gobiid fish, *Tridentiger brevispinis* *Yuji Sawara & Nobuyuki Azuma*

P-34 Speciation and ecological diversification of gobiid genus *Tridentiger*: Molecular phylogenetic perspectives and physiological comparisons
Takahiko Mukai, Masaaki Morisawa & Mutsumi Nishida

P-35 An undescribed species of the genus *Amblyeleotris* (Pisces: Gobiidae) from Japan
Yoshimasa Aonuma, Akihisa Iwata & Tetsuo Yoshino

P-36 Review of gobiid fish genus *Oxymetopon* *Yuji Ikeda, Seiichi Hosoya, Toshikazu Kozawa, Takeshi Kon & Tetsuo Yoshino*

P-37 Early maturity found in some gobioid fishes throughout the year *Takeshi Kon & Tetsuo Yoshino*

P-38 Preliminary review of *Schindleria* (Perciformes, Gobioidei, Schindleriidae) found in the Ryukyu Islands, Japan
Tetsuo Yoshino, Takeshi Shimojo & Takeshi Kon

P-39 Diversity of the sperm types in gobioid fishes, with special reference to the genus *Schindleria* (Schindleriidae)
Masako Hara, Muneo Okiyama, Kazunori Takano & Shigeo Nakamura

P-40 Novel patterns of adhesive apparatus on the eggs in the genus *Schindleria* (Gobioidei: Schindleridae) *Kazunori Takano, Masako Hara, Muneo Okiyama, & Shigeo Nakamura*

P-41 Interrelationships of the Pleuronectiformes (Teleostei) and evolution of bilateral asymmetry
Koichi Hoshino & Kunio Amaoka

P-42 Phylogenetic relationships among the right-eyed flounders, genus *Pleuronectes* and related taxa *Nobuaki Suzuki, Naoya Ishiguro, Mutsumi Nishida & Kunio Amaoka*

（西田　睦　Mutsumi Nishida: 〒164–8639 東京都中野区南台 1–15–1　東京大学海洋研究所海洋生命科学部門　mnishida@ori.u-tokyo.ac.jp）